

【フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	長野県
-------	-----

・学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	塩尻市立吉田小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	職員数
学級数	3	3	3	2	2	2	2	17	
児童数	89	86	95	64	75	62	7	478	24

・実践研究の概要

1. 主題(テーマ)

伝え合い深めあう学習場面の創造

2. 内容と方法

(1)実施学年・教科(選択した理由を付すこと)

4学年 国語  
 (目が自分の外に向きがちであったり、空想的であったり、はやる気持ちをなかなか抑えられなかったりするこの時期に、自分の思いを書き取ったり、相手に分かるように話したりする学習を通して、自己を見つめたり深く考えたりする力をつけたいと考えた。)

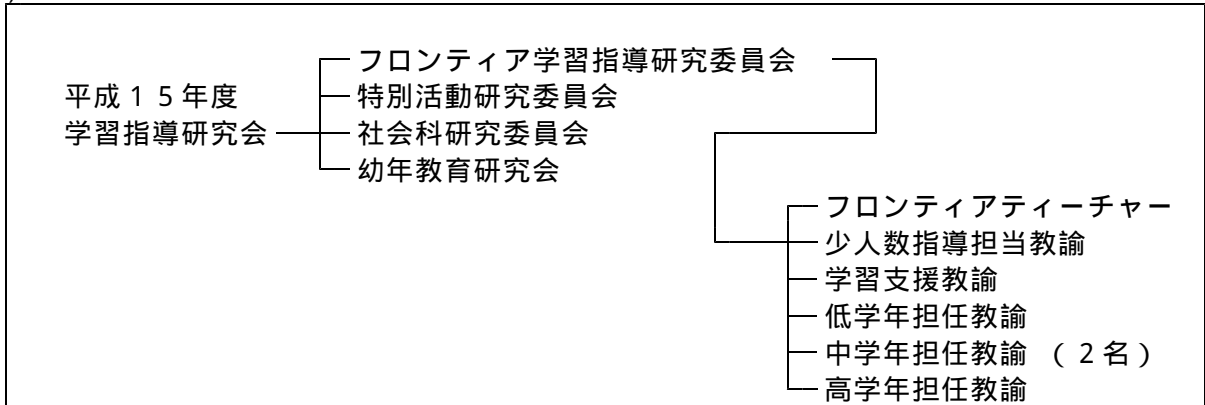
(2)年次計画

平成14年度	<p>テーマ                      考えたことを文章化し伝える力をつけるための少人数学習のあり方                      仮説                      [書く]領域では、高学年になっても思うように自分の考えや思いを文章に表現できないために学習意欲が高くない子どもが多数見られるとともに、よく書ける子どもと書けない子どもとの学力差が非常に大きい。                      このような子どもたちに、自分の考えを相手に分かりやすく書いて伝えるための基礎・基本をきめだし、個々の子どもの評価に基づいたきめ細かな指導・助言をしたり、学級の傾向をつかんだ学習活動を仕組んだりすれば、書くことに対する苦手意識が軽減し、自分の考えや気持ちを書いて表現する楽しさを味わえるようになるであろう。また、他者の気持ちを読みとり感想を伝える活動を仕組めば、他者を尊重する態度や尊敬する気持ち、他人を思いやる気持ちや共に生きていこうとする気持ちが育つであろう。</p> <p>研究内容・方法                      (1)4月、書く力の評価規準をもとに、子どもの書く力を、『遠足の作文』を診断的に評価した。                      (2)診断的評価をもとに、児童個々および学級につけたい力をきめだした。                      (3)6月、段落構成の力をねらった授業研究                      単元名 「集めた材料を整理して書こう」                      ~段落配列と表記・書式を整えて~                      (4)(3)で書かれた作文を評価し、成果と課題を把握した。                      (5)学力向上を目指し、日常の取り組みとして次のことを行った。</p>
--------	--

	<p>子どもの書いた作文や教科書の文章等の読み聞かせ      視写 日記の指導      連絡帳にその日の体験を3行程度書くこと      筆談 辞書作文</p> <p>(6)表記や文法の個別指導      会話文の指導 文章構成の指導 表現方法の指導      常体・敬体の指導 指示語の指導 つなぎ言葉の指導</p> <p>(7)11月、効果的な表現を工夫する力をねらった授業研究      単元名 「心に残ったできごと」を書こう      ~学校文集「ちごちごの花」作りを通して~</p> <p>(8)(7)で書かれた作文の評価と、指導の成果と課題をまとめた。      (9)一年次の研究をまとめた。</p>
平成15年度	<p>テーマ      伝え合い深め合う学習場面の創造      ~自他の学びを深め、コミュニケーションの力を高めていく子ども~      仮説      目が自分の外に向きがちであったり、空想的であったり、はやる気持ちをなかなか抑えられなかったりする段階の子どもたちに、すすんで相手に自己を話し伝えようとする気持ちを高め、互いの学びを深め合う授業づくりをすれば、コミュニケーションの力を一層高めるとともに自他への理解を深めることができると考えた。      そのために以下の手だてを考えた。</p> <p>(1)毎日の読書の時間の『読み聞かせ』で美しい言語に触れさせる。      (2)生活と繋げ、子どもたちがつくりだす学習を仕組む。      (3)心の葛藤場面や互いの考えが拮抗する場面を仕組む。      (4)安心して自己を表出できる人間関係などの環境を整え、よりよい学習形態を探る。      (5)ねらいを明確にし、活動時間を十分に確保した授業をつくる。      (6)好ましい学習習慣を形成する。</p> <p>研究内容・方法      (1)評価基準をもとに、『無人島で暮らすには』におけるグループの話し合いの場面で評価した。      方法：録画、録音、筆記による記録を、コンピュータに入力し、個々の発言を評価し数値化した。      (2)(1)の評価をもとに、児童の実態について考察し、つきたい力「自分の思いを根拠や説明を加えて話ができる」を決めだした。      (3)授業研究「スピーチ原稿の段落の並べ方」を行った。      単元名 「心に残る発表会をしよう ~十さいの今を伝えよう~」      (4)(3)の授業記録、研究会記録を元に学習指導を分析し振り返った。      (5)学力向上を目指し、日常の取り組みとして次のことを行った。      毎日の「読書の時間」での読み聞かせ      子どもの関心を高める題材・教材の選定      個々の感想・予想のずれからつくり出す学習問題      学習問題追究過程で、意識的に拮抗場面をつくっての話し合い      発言の仕方の揭示      ノートの取り方の指導と点検</p> <p>(6)二年次の成果と課題をまとめた。</p>
平	<p>テーマ 客観を通して自他の学びを深め、表現する学習      仮説      子どもたちにとって「思い」(主観)と「事実」(客観)を区別することが難しく、主観が大きなウエイトをしめている実態が見えてきた。子どもたちの表現活動を、第三者(相手)の立場に立ったものにする学習を展開する必要を感じる。</p>

成 16 年 度	<p>(1) 生活科や総合的な学習の時間との関連をはかった国語学習のあり方を探る。</p> <p>(2) 効果的な表現と読書との（読み聞かせを含め）関係を探る。</p> <p>(3) 子どもの見取りの深め方について研究する。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 書くこと・話すことの基礎基本のきめだしとつきたい力の明確化とともに評価方法を工夫し、評価を生かした指導のあり方を探る。</p> <p>(2) 手紙、感想文、スピーチやディベート等に適した題材を発掘する。</p> <p>(3) 表現に必要な材料収集、材料の整理、構成などの効果的な方法を探る。</p>
-------------------	--

(3) 研究体制

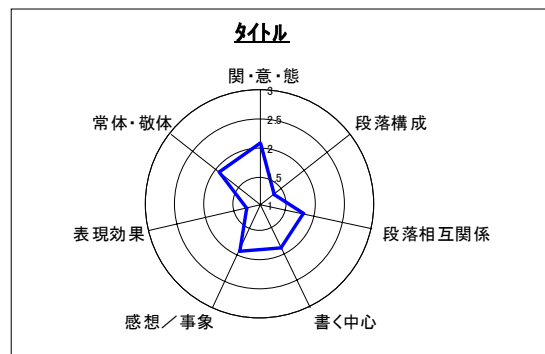
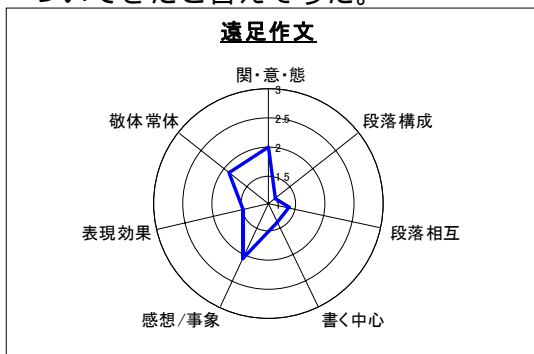


・平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

成果

- (1) スピーチの材料収集において、小さなカードにランダムに書かせ採集させた事により、収集した材料の数が多く、文章作りが苦手な子どもたちにも効果的であった。  
子どもたちが浮かんでくる「思い」を書き取ることは、漠然としたものをひとつひとつ具体化し整理することにつながったといえる。さらに心の発達にも寄与していると思われる。
- (2) TTによる個別指導は、読み手や聞き手を意識できない子どもたちに、相手に伝わるわかりやすい文章をつくるためには「事実」をきちんと加えなくてはならないことを意識させるのに効果があった。
- (3) 特別活動と国語の学習を横断的に扱ったことは、子どもたちの意欲をかき立て、目的意識を持った学習を成立させることにつながった。
- (4) (3)に関連し、学級担任が中心となってスピーチづくりの指導を行ったことは、子どもたちの実態に即した指導を行う上で有効であった。
- (5) 次のレーダーチャートは、昨年度5年生が6月に書いた遠足の作文と今年度4年生が11月に書いたスピーチ原稿の評価を比較したものである。客観的な比較は難しいが、書こうとする事を中心を明確にし、段落構成や段落相互の関係を考えて文章を書く力がついてきたと言えそうだ。



- (6) 各種作文コンクールで好成績を得た。

## 2. 今後の課題

- (1) 子どもたちにとって「思い」(主観)と「事実」(客観)を区別することは、難しかった。主観が中心の子どもたちの表現活動を、第三者(相手)を意識したものにする学習活動をさらに工夫する。
- (2) 生活科や総合的な学習の時間との関連をはかった国語学習のあり方を探る。
- (3) 効果的な表現と読書との(読み聞かせを含め)関係を探る。
- (4) 子どもの見取りの深め方について研究する。

### 学力把握のための学校の取組について

- ・ C R T (教研式標準学力検査)の実施(年1回)
- ・ 長野県学力実態テストの実施
- ・ 評価基準をもとにした評価方法の工夫と評価基準の見直し

### ・ フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・ 研究会、説明会等の開催実績
  - 1 公開授業研究会  
日時 10月 10日(金)
  - 2 県外よりの視察
    - (1) 愛知県犬山市より学事視察 7月3日(木)
    - (2) 石川県宇ノ気町校長会学事視察 7月15日(火)
  - 3 HPへの掲載 (<http://www.shiojiri-yoshida-e.ed.jp/>)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】     15年度からの新規校     14年度からの継続校
- 【学校規模】             6学級以下             7～12学級  
                          13～18学級             19～24学級  
                          25学級以上
- 【指導体制】             少人数指導             T・Tによる指導  
                          一部教科担任制         その他
- 【研究教科】             国語             社会             算数             理科  
                          生活             音楽             図画工作        家庭  
                          体育             その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】     有     無